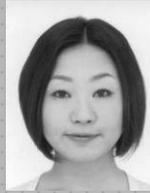


突撃インタビュー

編集部ハルちゃんが行く！

ハルちゃんって誰？



本誌の編集担当者。3月生まれなので先月は珍しくイベント(という名の飲み会)がいろいろあったのに、風邪をこじらせて結構大変なことになり、ひと月のうちほとんど寝込んでおりました...。「高校時代は皆勤賞だったのになあ」とぼやいたところ、「いつの時代の話をしとるんじゃ!」と友人に一蹴され、高校時代がはるか昔であることもあらためて痛感。またひとつ歳をとってしまったことだし、これからは自分の体力を過大評価するのはやめておこう...

今回は超精密ホーニングマシンの総合メーカー、日進製作所さんにインタビュー。精密部品のみならず、多様な生産ラインのホーニングマシンでも業界をリードしている背景にはどんな特徴が? 今回も基礎から教えていただきました♪

第78回目 株式会社 日進製作所

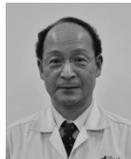


〒627-0037 京都府京丹後市峰山町千歳22
TEL (0772)62-1111
<http://www.nissin-mfg.co.jp/>

お話を伺った方



代表取締役社長
前田 昌則 氏



取締役
産業装置本部 本部長
折戸 秀行 氏



産装営業部
部長
大坪 和信 氏

□■ 今回のお題：ホーニング加工 ■□

はじめは計算機

ハル: 御社は超精密ホーニングマシンの総合メーカーとして、幅広い分野のユーザーをもつリーディングカンパニーですよね。やはり創業時から工作機械を手がけてこられたのですか?

前田: いえ、当社の創業者はもともと、タイガー計算機で機械式計算機の開発に従事していました。戦争中、同社が商品化した20桁の機械式計算機は軍需品となっていたようですね。

ハル: 計算機とは意外! 意外といえ、都心に本社を置く企業が増えている昨今、天橋立があるこの地に本社があるというのも意外でした。創業者の方がこの地のご出身だったとか?

前田: 創業者は出雲出身で、大阪で働いていました。疎開でこの地に移った後、ここで当社を創業したのです。戦後は「平和産業を手がけたい」という思いから現場の技術が生かせる分野を模索し、工業用ミシンのポピンケースなどを手がけていました。

ハル: ポピンケースかあ、家庭科の授業でいつも糸を絡ませてたな...(汗)。それにしてもミシンの部品とは、なんだか身近にある製品ですね。御社がホーニングマシンを手がけるようになったきっかけは何だったのでしょうか。

前田: 昭和33年に本田技研工業が販売

を開始した「スーパーカブ」が大ヒットしたことです。これには「バルブロッカーアーム」という部品が使われており、当社がその受注を受けたのです。その後当社でも工作機械をつくりはじめ、その中にホーニングマシンもあったのですよ。

ハル: 御社が超精密ホーニングマシンで業界をリードするようになった背景に、スーパーカブの大ヒットもひと役買っていただくとこれはまた意外でした! でも、ホーニングマシンならずして他社の製品がありましたよね? それまでずっと工作機械を手がけてこられたならともかく、はじめから手がけるより、すでに出来上がっている製品を買ってきて加工したほうがラクだったのでは...。

前田: 当時、横型ホーニング加工は女性にとっての3K現場として、非常に嫌われていたのです。これを何とかしたい、作業する人達の苦痛を減らすホーニングマシンをつくりたい、と考えたのがはじまりですね。

ハル: 効率化云々ではなく、そこで働く人達のことを考えての取り組みだったのですか! 御社の製品はユーザー視点に立ったものづくりという点でも評価が高いとうかがっていますが、その姿勢は昔から脈々と受け継がれてきたものだったんですね。

前田: 現在、当社ではマシン本体と

ツール、砥石、治具を独自のノウハウでトータル的に製作し、超精密加工を実現しています。当社の売上を大まかに見ると自動車等のエンジン部品が7割、ホーニングマシンが2割で、あとは工業用ミシン部品などの精密部品等ですね。

ハル: ユーザーの業界は、やはり自動車部品などが中心ですか?

前田: そのほかにも二輪、油空圧、家電、金型、汎用エンジン、ミシン部品など多岐にわたっています。日本のオートバイメーカーとは、ほぼすべてと取引がありますよ。

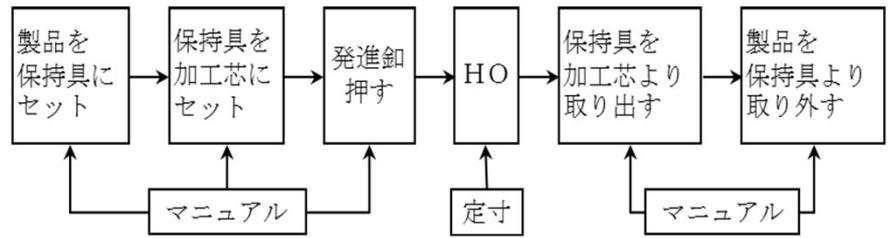
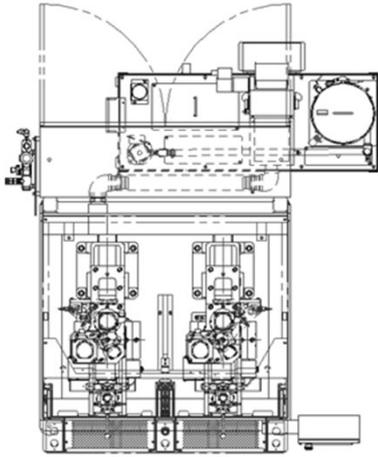
地の不利を地の利に変える

ハル: 御社は「一貫体制」や、小型で高性能な精密機械を手がけておられることでも高い評価を受けておられますね。

折戸: そうですね。実はそれらの背景には当社の立地も影響しているんですよ。

ハル: 言われてみればこのあたりは工業地帯というよりも、天橋立やブランド蟹など、観光のイメージのほうが強いんですよね。

折戸: そうですね、流通手段などを考えると、正直なところ地の利がいいとは言えません。でもだからこそ、それを生かした当社のカラーも出ているんです。



右および上の図は、日進製作所さんによるホーニング加工事例。
また、誌面の都合上図版の掲載スペースが取れなかったのですが、本文で紹介したセル型ホーニング盤には幅広いラインナップがそろっていてびっくり。
ユーザー目線に立ったきめ細かいサービスにも、高い評価が寄せられているんですよ！

ハル:と、言うത്???

折戸:たとえば一貫体制。素材から一貫して手がけています。部品加工で内製の自動ラインを敷いているのもそうです。他の部品メーカーから地理的に離れている以上、自分たちで賄おう、ということです。また、当社では小型のホーニングマシンや手のひらにのるような小型製品を手がけています。これはもちろん当社の超精密加工技術をより生かせるといった背景もありますが、大きい製品に比べれば、小さいほうが運搬費の削減にもつながります。エンジン部品などには特殊なものも多いので、そういった場合は当社の技術者をユーザーに派遣して、開発から一緒に手がけることも多いです。

ハル:なるほどー！ 内製の機械が多いということは、それだけ御社オリジナルの技術や加工もできそうですね。オリジナルといえば、御社の製品では高性能な「セル型ホーニング盤」も特徴があると聞いたのですが、どんな製品なんですか？

大坪:スペースをとらず、生産変動にフレキシブルな対応ができる製品です。φ4～φ100の加工径をカバーした「G50型セル」、φ4～φ10の小径加工に特化した超精密高性能セル型ホーニング盤の「G10型」など、希望に合わせてお選びいただけますよ。目的に合わせて自由な組み合わせができ、増減自在ですので、設備納入後でも追加増設

や転用が可能です。

ハル:それは画期的ですね！加工内容や工場のスペースに変更があっても、柔軟に対応できるということか。

大坪:これも元々は、ユーザーからの希望がきっかけなんです。今の時代は受注が一定しない業界も少なくありませんからね。先に述べたように当社ではユーザーの元に出向して開発段階から共に手がける機会も多いので、そこで伺った「現場の声」が、当社の製品づくりに生かされた一例です。

ハル:部品加工は海外拠点で手がけているユーザーさんも多いだろうから、フレキシブルかつ運搬費も削減できる御社の製品は、そういう面でもうれしいだろうなあ。御社の海外進出についてはいかがですか？

大坪:当社の主なユーザーは生産拠点を東南アジアなどにおいているところも多いので、当社もそれに合わせて海外進出することが多いです。

折戸:地産地消で、向こうでつくったものは基本的に日本に持って来ず当地で売っています。ただ、技術はきちんと日本に残しておこうということで、海外消費がメインの製品でも少しは日本で手がけているものもありますよ。

ハル:先ほど御社の一貫生産ラインのお話がありましたが、こういう体制をとっている会社は多いんですか？

折戸:いえ、ホーニング盤については当社のようにホーニング本体、ツール

や砥石、治具をすべて自社で手がけているメーカーは、国内ではほとんどないでしょうね。

ハル:ええっ、すごい！ どうしてそんなにノウハウがあるんですか!?

折戸:もちろん自社の技術センターで常に研究開発に取り組んでいる成果もありますが、ユーザーや人とのつながりで広がっていくこともありますよ。たとえば砥石は海外の競合メーカーの方と仲良くなったことがきっかけで、その後いろいろと知識を伝授していただいたこともあります。

ハル:競合会社がノウハウを教えてくれたんですか!? きっとお互いのものでいいご縁につながったのだろうなあ。前田社長はじめ皆さんのお話ぶりからも温かいお人柄がうかがえるのですが、そういった社員の皆様のお人柄も、いい出会いを生んでいらっしゃるように感じられます。

前田:いえいえ、そんな...(笑)。でも先ほどの「地の不利を生かす」にもう少しつけ加えるならば、都心に比べ地の利がない反面、緑豊かな土地でのびのびと働ける、社員の定着率が高い、自分たちの力でやりきれ、といったメリットもあるんですよ。今後も当社のメリットを生かして、ユーザーから喜ばれる製品づくりをしていきたいですね。

取材のあとのお楽しみ♪

普段の生活では「カニ＝カニ風味かまぼこ」という庶民の舌なワタクシですが、取材の時くらいは！ ということで、松葉ガニを食してまいりました！ 脚につけられたピンクのタグ（松葉ガニである証）がまぶしいわ…。みっちり詰まった身は濃厚ながらも上品な甘みあり。茹でガニ、カニしゃぶ etc...もう昇天しそうです。ちなみにこの地方では間人（たいざ）ガニも有名。山陰地方の特産である松葉ガニの中でも、都北部の丹後半島・間人港で水揚げされたもの限定のカニです。水揚量が不安定な“幻のカニ”でもあるため今回は断念しましたが、機会あらばいつか是非食べてみたい～。

こんなコト
★しちゃいました★



日本三景、見てきました☆

天橋立のお膝元にある日進製作所。実はまだ行ったことがなかったので、人生初の股のそきに挑戦！ 絶景スポットにはちゃんと「股のそき台」があるので初心者でも安心です。穏やかな天気の中、絶景を堪能してまいりました～♪ …しかしこの写真、ダウンジャケットのせいか体形のせいか「巨大なダンゴ虫」にしか見えないんだけど…